

平成 27 年 6 月 10 日
兵庫県（病院局企画課）
西宮市（中央病院病院改革担当部）

「西宮市域における県立西宮病院と西宮市立中央病院の現状と課題に係る
意見交換会」の取りまとめ報告

- 1 はじめに
- 2 西宮市域の医療課題
 - （１）将来人口の推移
 - （２）医療の現況と将来推計
 - （３）５疾病５事業から見た課題
- 3 両病院の課題
- 4 今後の対応
- 5 参考資料

1 はじめに

西宮市内にそれぞれ公立病院を有する兵庫県と西宮市の間で、西宮市域の医療課題や県立西宮病院と西宮市立中央病院の現状と課題について意見交換を行い、その内容を取りまとめた。

2 西宮市域の医療課題

（１）将来人口の推移（参考資料 1）

- ・全国では、75 歳以上の後期高齢者数が 2030 年以降高止まり
- ・西宮市では、後期高齢者数は 2030 年以後においても増加の見込み

（２）医療の現況と将来推計

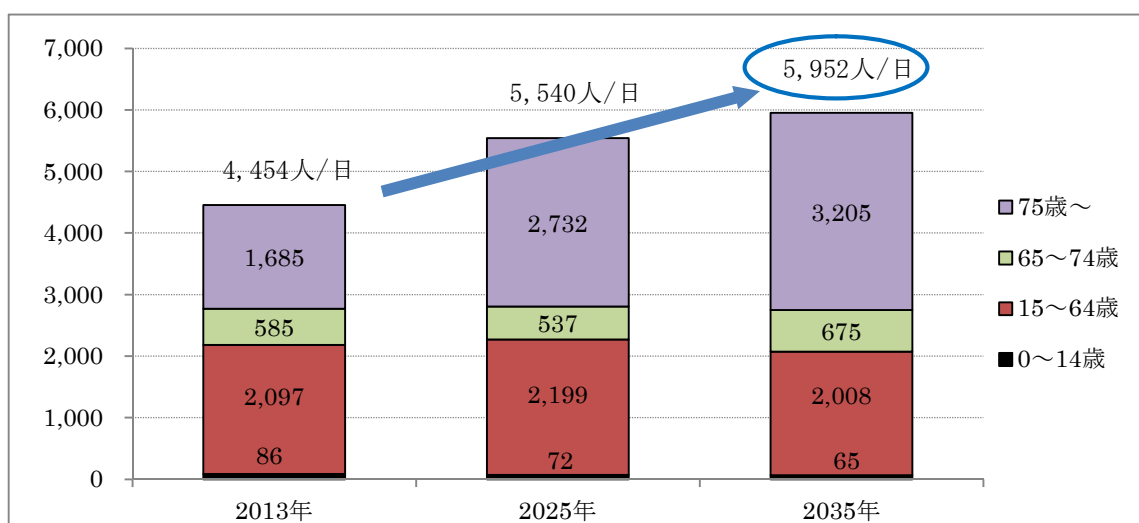
①死因別標準化死亡比（精神を除く 4 疾病）（参考資料 2）

- ・西宮市民の標準化死亡比は、全死因においては、男女ともに全国平均未満
- ・がん及び急性心筋梗塞などの標準化死亡比は、男女ともに全国平均を超過
- ・脳梗塞及び糖尿病の標準化死亡比は、全国平均未満

②入院医療需要

- ・2035 年の入院医療需要は、2013 年比で 33.6% (1,498 人/日) 増加

(表1) 「西宮市における入院医療需要の将来推計 (1日あたり推計入院患者数)」¹

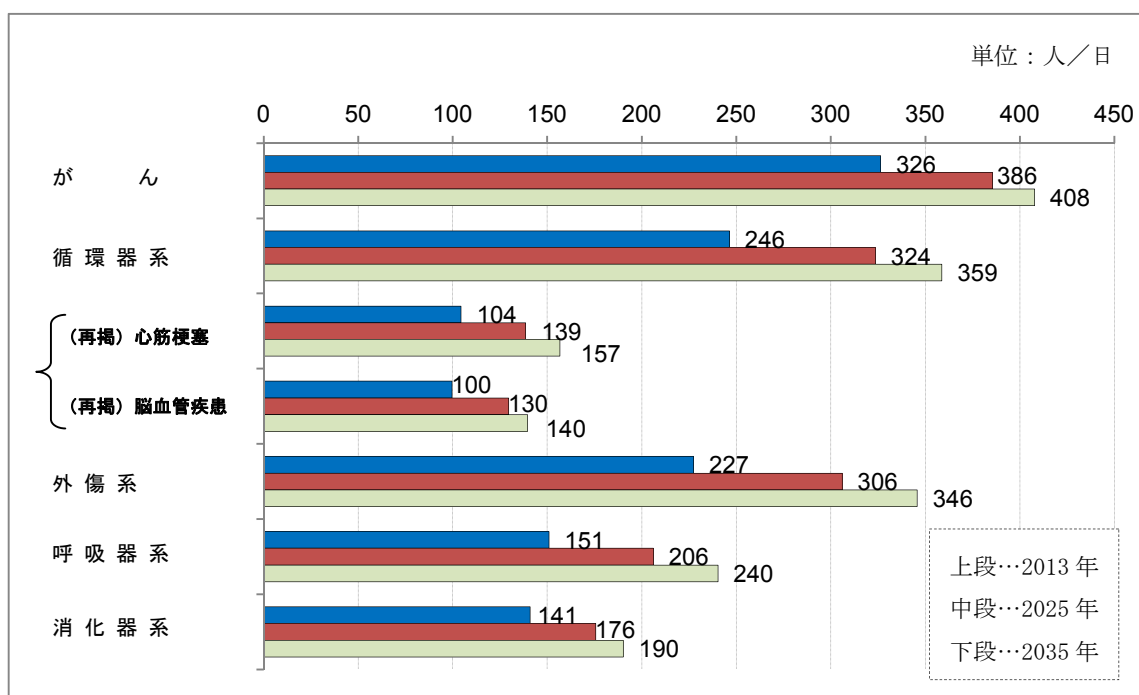


(注) 端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

③疾患別急性期入院患者数

- ・がん、循環器系疾患等の患者数は増加傾向

(表2) 「将来推計・疾患別急性期入院患者数 (患者数上位5疾病)」²



¹ 西宮市国民健康保険及び西宮市後期高齢者医療制度の疾患別データ (2013年3, 6, 9月審査分) を基に国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口から算出 <西宮市立中央病院経営企画課 作成>

² (同上)

④救急搬送件数

- ・救急搬送件数は増加傾向
約 17,500 件（2013 年）→ 約 23,800 件（2035 年）（36%増）
- ・救急搬送のうち、重症患者の多い傷病順に 外傷系、循環器系、神経系

（表 3）「将来推計・疾患別救急搬送患者数（成人）」³

[全体]

単位：人／年

	救急搬送患者数			差		伸び率	
	2013年	2025年	2035年	2025年 -2013年	2035年 -2013年	2013年 →2025年	2013年 →2035年
総計	17,458	21,765	23,799	4,307	6,341	25%	36%

[重症]

単位：人／年

分類傷病名	救急搬送患者数			差		伸び率	
	2013年	2025年	2035年	2025年 -2013年	2035年 -2013年	2013年 →2025年	2013年 →2035年
外傷系	524	789	960	265	436	51%	83%
循環器系(脳血管疾患除く)	204	280	321	76	117	37%	57%
神経系(脳血管疾患含む)	108	139	156	31	48	29%	45%
呼吸器系	57	78	94	21	37	37%	65%
消化器系	26	34	41	8	15	32%	56%
その他	20	22	25	2	5	10%	26%
計	939	1,342	1,598	403	659	43%	70%

（注）2025 年及び 2035 年の救急搬送患者数は、端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

（3）5 疾病 5 事業から見た課題 （※5 事業：へき地医療を除く）

①がん

- ・将来も増加傾向にあるがん患者に対する治療の充実
- ・専門的な緩和ケア診療体制の充実

②心疾患

- ・将来も増加傾向にある心疾患への対応
高齢化に伴い、心疾患とともに他の臓器疾患を抱えた患者の増加も見込まれる。
- ・将来も増加傾向にある重症救急搬送患者への対応（⑥救急医療）

③脳血管疾患

- ・現状で対応可能

³ 西宮市消防局 救急活動データ（2013 年）を基に国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口から算出
＜西宮市立中央病院経営企画課 作成＞

④糖尿病

- ・現状で対応可能

⑤精神疾患

- ・身体合併症を有する精神疾患患者への診療体制の確保

⑥救急医療

- ・救急搬送件数の増加が見込まれる中での２次・３次救急体制の維持・充実
- ・特に一刻を争う重症度の高い循環器系疾患救急への対応

⑦周産期医療（参考資料３）

- ・圏域外流出率が高いハイリスク妊娠への対応（流出率 45.8％）

⑧災害医療

- ・南海トラフ巨大地震時の医療供給体制の確保
兵庫県津波浸水想定図（平成 25 年 12 月兵庫県公表。現状に基づく浸水想定）では、２つの災害拠点病院が津波浸水想定区域内（兵庫医科大学病院）又は付近（県立西宮病院）に位置している。
なお、津波防災インフラ整備計画（平成 27 年 6 月兵庫県策定）に基づく防潮堤の沈下対策などの津波対策を行った後の浸水想定図では、上記２病院は津波浸水想定区域外に位置する。
- ・災害時に利用できるヘリポートの設置
市内に災害時の患者搬送のためのヘリポートを設置している病院がない。

⑨小児医療（小児救急を含む）

- ・圏域外へ流出している入院患者への対応（流出率 33.3％）（参考資料４）
- ・小児２次救急輪番体制の充実
一部深夜帯はオンコールのみで対応（関西労災病院担当）している。

3 両病院の課題

(1) 診療機能について

①県立西宮病院

- ・救命救急センターの機関指定を受けているが心臓血管外科が未設置
- ・呼吸器内科、神経内科等の体制の充実

②市立中央病院

- ・医師不足のため急性期・総合型病院として必要な診療機能の一部が不足

- ・脳神経外科など一部の診療科で入院対応ができていない。
- ・産科の休止などにより 64 床が稼働していない。
- ・救急の心疾患に対応できていない。

(2) 経営について

①県立西宮病院

- ・疾患の種類や重篤度に応じた平均在院日数の適正化等による純損益の黒字維持

②市立中央病院

- ・医業収益の向上と総人件費の抑制による給与費比率の改善などを通じた、純損益の黒字化
- ・70%を割り込んでいる病床利用率の改善

- ・総務省の「新公立病院改革ガイドライン」では、病床利用率がおおむね過去3年間連続して70%未満の病院については、病床数の削減などの抜本的な見直しを検討すべきとされている。

<主な経営指標（平成25年度実績）>

区 分	当期純損益	病床利用率	給与費比率
県立西宮病院	530 百万円	81.2%	61.7%
市立中央病院	△486 百万円	67.6%	73.2%

(3) 施設・設備・医療機器について

①県立西宮病院

- ・今後、概ね20年程度は使用可能な施設等の適切な維持管理が必要
- ・今後見込まれる医療需要の増加、医療を取り巻く環境の変化などによる診療機能等の充実に必要な拡張の余地がない。

②市立中央病院

- ・築40年経過した施設であり老朽化への対応と耐震化が喫緊かつ最大の課題
- ・放射線治療機器（リニアック）など耐用年数を超過した高額医療機器・設備の更新が必要

＜両病院施設の概要＞

区 分	県立西宮病院			市立中央病院
敷地面積	8,785.71 m ²			12,281.07 m ²
建築年次	本館	2号棟	3号棟	昭和50年 (築40年)
	平成6年 (築20年)	昭和49年 (築40年)	昭和45年 (築44年)	
構 造	SRC 地上11階 地下1階	RC 地上5階 地下3階	RC 地上5階	RC 地上6階 地下1階
耐震工事完了	平成7年10月	平成9年9月	平成10年3月	未実施

(4) 将来計画への位置づけ

①県立西宮病院

- ・「第3次行財政構造改革推進方策」において、統合再編、建替整備の将来計画は定めていない。

②市立中央病院

- ・「第4次西宮市総合計画」では、市内の医療環境の改善を図るため、今後、県立西宮病院との統合を視野に入れた取組を進めることとしている。
- ・「中央病院経営改革プラン」では、当分の間、現施設で継続して医療を提供していくため、経営健全化の取組と合わせ、建物の耐震化、施設・設備の改修や医療機器の更新を行うこととしている。

4 今後の対応

兵庫県と西宮市との間で共有化した課題の解決に向け、両病院の役割分担・連携の推進、再編など、様々な取組の可能性を検討していく。

＜参考とすべき国の動向＞

(1) 新公立病院改革プランの策定（[参考資料5](#)）

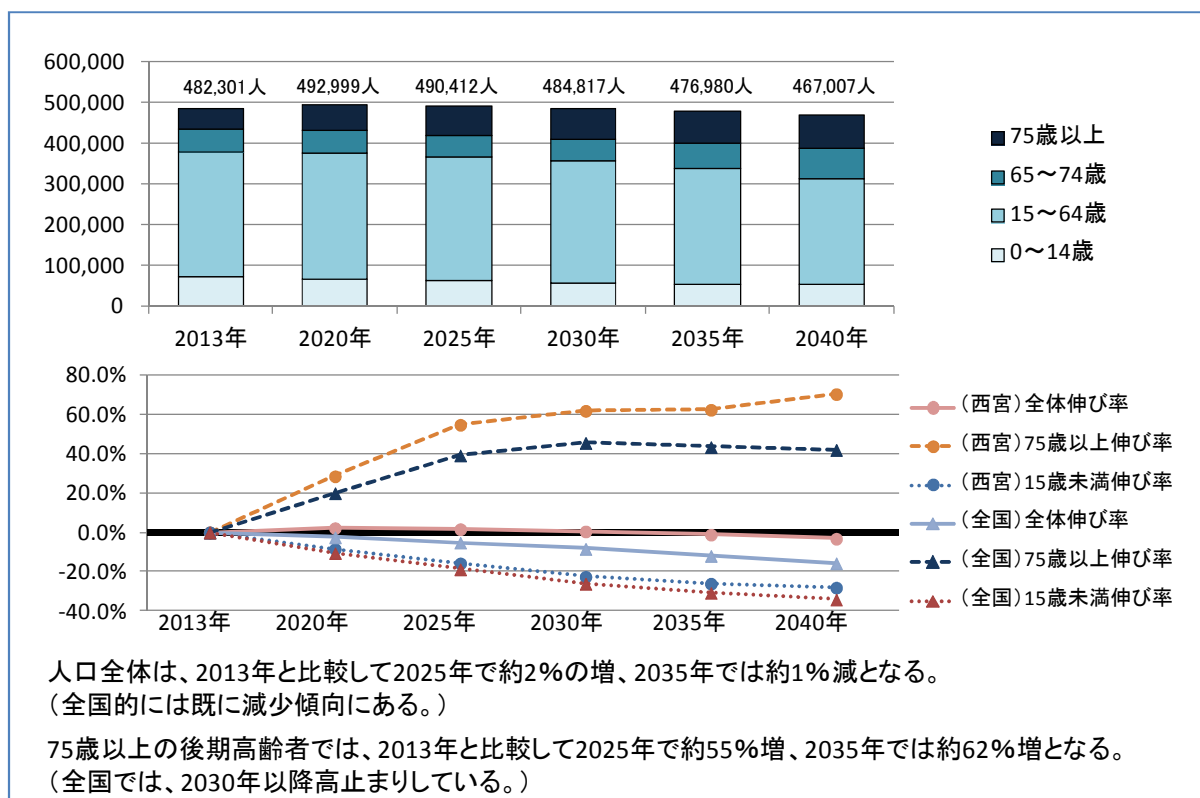
新公立病院改革ガイドライン(平成27年3月31日策定)に基づき、各公立病院は、従前の「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」及び「経営形態の見直し」の視点に加え、新たに「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を加えた4つの視点に立った新公立病院改革プランを平成27年度又は平成28年度中に策定し、病院機能の見直しや病院事業経営の改革に総合的に取り組む必要がある。

(2) 地域医療構想の策定（[参考資料6](#)）

各医療機関からの医療機能の現状と今後の方向の報告を踏まえ、県は、国の定めた「地域医療構想策定ガイドライン」を参考に、2025年の医療需要と病床の必要量及び目指すべき医療提供体制を実現するための施策を定める地域医療構想を平成27年度から策定に着手する。

5 参考資料

参考資料 1 「西宮市の将来人口の推移」⁴



参考資料 2 「西宮市の死因別標準化死亡比（4 疾病）」⁵

疾 病	男	女	疾 病	男	女
悪性新生物	105.8	105.6	高血圧性疾患	112.3	78.2
食道がん	134.8	104.0	心疾患	89.8	100.7
胃がん	106.6	109.2	急性心筋梗塞	104.3	110.3
結腸がん	104.2	107.7	その他の虚血性心疾患	70.5	72.4
直腸がん	102.8	102.1	心不全	105.1	118.4
大腸がん	103.7	106.2	脳血管疾患	74.2	76.3
肝がん	116.5	113.7	くも膜下出血	71.9	67.4
膵がん	99.4	103.9	脳内出血	73.9	73.8
肺がん	102.3	110.6	脳梗塞	70.3	77.9
乳がん		113.6	糖尿病	94.7	77.9
子宮がん		90.3			
前立腺がん	90.3		全死因	94.3	98.1

※平成 18～22 年の死因別死亡数などから求めたもの。

※全国のを 100 としており、100 以上の場合は全国平均より死亡率が高く、
100 以下の場合は死亡率が低いと判断される。

⁴ 西宮市住民基本台帳人口、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出 <西宮市立中央病院経営企画課 作成>

⁵ 兵庫県立健康生活科学研究所 健康科学研究センター業務年報（平成 25 年度）を基に作成 <西宮市立中央病院経営企画課 作成>

参考資料 3 「周産期医療の急性期入院患者数（2013 年市内・圏域内外別推計）」⁶

疾病中分類	西宮市_医療機関受診		芦屋市_尼崎市_医療機関受診		医療圏外_医療機関受診		推計受診者_計 延患者数/年
	延患者数/年	受診割合	延患者数/年	受診割合	延患者数/年	受診割合	
妊娠、分娩及び産じょく							
流産	212	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	212
単胎自然分娩	0	0.0%	167	100.0%	0	0.0%	167
その他の妊娠、分娩及び産じょく	3,785	43.3%	982	11.2%	3,969	45.4%	8,736
周産期に発生した病態							
妊娠及び胎児発育に関連する障害	407	27.8%	0	0.0%	1,059	72.2%	1,466
その他の周産期に発生した病態	2,402	56.8%	74	1.8%	1,751	41.4%	4,227
先天奇形、変形及び染色体異常							
心臓の先天奇形	73	14.5%	105	20.8%	326	64.6%	504
その他の先天奇形、変形及び染色体異常	347	40.9%	213	25.1%	289	34.1%	849
計	7,227	44.7%	1,540	9.5%	7,394	45.8%	16,161

（注）端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

参考資料 4 「小児医療の急性期入院患者数（2013 年市内・圏域内外別推計）」⁷

疾病大分類	西宮市_医療機関受診		芦屋市_尼崎市_医療機関受診		医療圏外_医療機関受診		推計受診者_計 延患者数/年
	延患者数/年	受診割合	延患者数/年	受診割合	延患者数/年	受診割合	
感染症及び寄生虫症	1,217	75.5%	163	10.1%	231	14.3%	1,610
新生物	3,701	65.2%	0	0.0%	1,972	34.8%	5,673
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	1,147	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1,147
内分泌、栄養及び代謝疾患	925	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	925
神経系の疾患	306	16.3%	74	3.9%	1,496	79.7%	1,876
眼及び付属器の疾患	102	25.6%	0	0.0%	296	74.4%	398
循環器系の疾患	244	58.0%	177	42.0%	0	0.0%	421
呼吸器系の疾患	3,743	69.4%	455	8.4%	1,195	22.2%	5,393
消化器系の疾患	652	95.0%	0	0.0%	34	5.0%	686
皮膚及び皮下組織の疾患	666	46.6%	0	0.0%	763	53.4%	1,429
筋骨格系及び結合組織の疾患	366	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	366
腎尿路生殖器系の疾患	1,206	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1,206
周産期に発生した病態	2,810	49.4%	74	1.3%	2,810	49.4%	5,693
先天奇形、変形及び染色体異常	179	20.5%	81	9.3%	611	70.1%	871
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	170	58.2%	122	41.8%	0	0.0%	292
損傷、中毒及びその他の外因の影響	192	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	192
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	68	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	68
計	17,694	62.6%	1,146	4.1%	9,408	33.3%	28,248

（注）端数処理の関係上、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

⁶ 西宮市国民健康保険及び西宮市後期高齢者医療制度の疾患別データ（2013 年 3, 6, 9 月審査分）を基に算出 <西宮市立中央病院経営企画課 作成>

⁷ 西宮市国民健康保険の疾患別データ（2013 年 3, 6, 9 月審査分）を基に算出 <西宮市立中央病院経営企画課 作成>

平成 19 年に策定した現ガイドラインの内容を継承しつつ、平成 26 年 6 月に成立した医療介護総合確保推進法に規定されている地域医療構想の実現に向けた取組と連携する事項等を盛り込み、平成 27 年 3 月に策定

新ガイドラインの内容

1 地方公共団体に対する新公立病院改革プラン策定の要請

- (1) 策定期限：平成 27 年度又は平成 28 年度（地域医療構想の策定状況を踏まえつつ、できる限り早期に策定）
- (2) プランの期間：策定年度～平成 32 年度を標準
- (3) プランの内容：現ガイドラインに示している三つの視点に、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を加えた『四つの視点』に沿った内容とする。

四 つ の 視 点	④ 地域医療構想を踏まえた役割の明確化
	経営の効率化
	再編・ネットワーク化
	経営形態の見直し

【地域医療構想を踏まえた役割の明確化】

- 都市と地方等、立地条件や求められる医療機能の違いを踏まえつつ、以下の点を明確化
- 地域医療構想で示す将来の医療需要・医療機能ごとの病床数の必要量と整合性のとれた形での当該公立病院の具体的な将来像
 - 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割（在宅医療等） 等

【経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し】

- 黒字化を目指して、経常収支比率等の数値目標を設定し、経営を効率化
- 病院間で機能の重複・競合が見られる病院、病床利用率が低水準の病院等、再編・ネットワーク化を引き続き推進（公的・民間病院との再編等を含む）
- 地方独立行政法人化等の経営形態の見直しを引き続き推進 等

2 都道府県の役割・責任の強化

都道府県は、医療介護総合確保推進法に基づき、地域医療提供体制の確保について、これまで以上の責任を有することから、地域医療構想の実現に向けた取組とも連携しつつ、再編・ネットワーク化等に積極的に参画

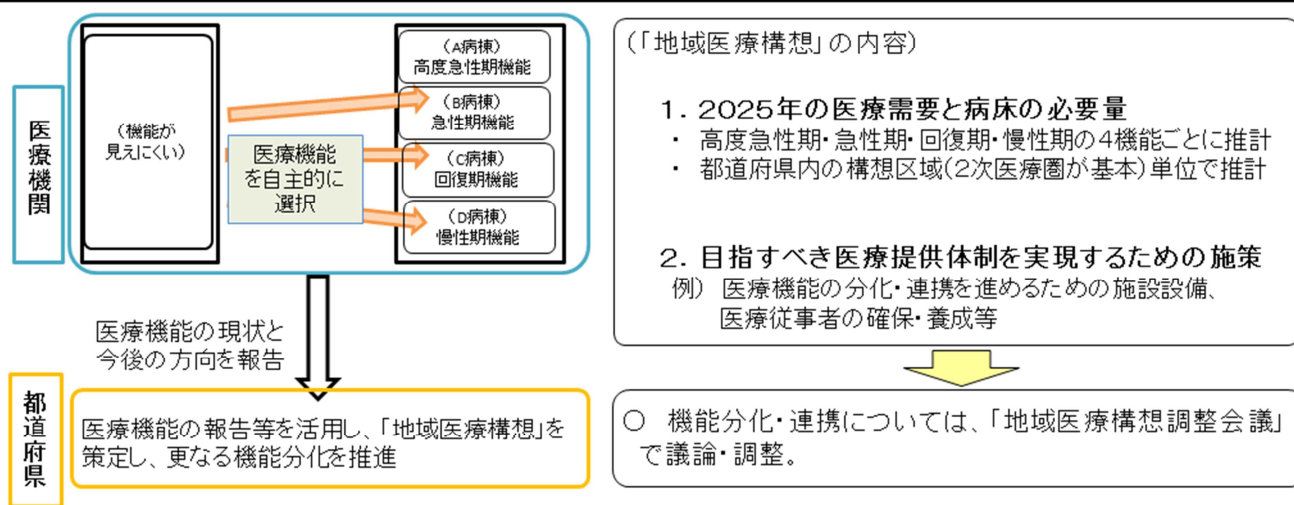
3 地方財政措置の見直し

再編・ネットワーク化に伴う施設・設備の整備について地方交付税措置を拡充するとともに、地方交付税算定基礎の許可病床数から稼働病床数への変更などの見直しを実施

⁸ 新公立病院改革ガイドライン（平成 27 年 3 月総務省）を基に作成 ＜兵庫県病院局企画課 作成＞

地域医療構想について

- 平成26年の通常国会で成立した「医療介護総合確保推進法」により、平成27年4月より、都道府県が「地域医療構想」を策定。（法律上は平成30年3月までであるが、平成28年半ば頃までの策定が望ましい。）
※ 「地域医療構想」は、2次医療圏単位での策定が原則。
- 「地域医療構想」は、2025年に向け、病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、定めるもの。
- 都道府県が「地域医療構想」の策定を開始するに当たり、厚生労働省で推計方法を含む「ガイドライン」を作成。平成27年3月に発出。



⁹ 厚生労働省ホームページ「地域医療構想」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000080850.html>)

○県立西宮病院と西宮市立中央病院の概要

(平成27年4月1日現在)

項 目	県立西宮病院（西宮市六湛寺町）	西宮市立中央病院（西宮市林田町）																																				
開 設 日	昭和11年1月	大正10年12月（昭和50年3月現在地開院）																																				
開 設 者	兵庫県	西宮市																																				
院 長	河田 純男（かわた すみお）	根津 理一郎（ねづ りいちろう）																																				
病 床 数	一般 400床（稼働 400床）	一般 257床（稼働 193床）																																				
診療科目	内科、消化器内科、 <u>血液内科</u> 、 <u>腎臓内科</u> 、 <u>循環器内科</u> 、小児科、外科、消化器外科、 <u>乳腺外科</u> 、 <u>整形外科</u> 、 <u>脳神経外科</u> 、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 <u>リハビリテーション科</u> 、 <u>放射線科</u> 、 <u>麻酔科</u> 、 <u>救急科</u> 、 <u>病理診断科</u> 20科	内科、消化器内科、外科、消化器外科、 <u>呼吸器外科</u> 、 <u>乳腺外科</u> 、 <u>整形外科</u> 、 <u>脳神経外科</u> 、小児科、 <u>皮膚科</u> 、泌尿器科、産婦人科（産科は休止）、眼科、耳鼻咽喉科、 <u>歯科口腔外科</u> 、 <u>放射線科</u> 、 <u>麻酔科</u> 、 <u>リハビリテーション科</u> 18科																																				
職 員 数 （正規のみ・専攻医含む）	613名（うち医師77名）	246名（うち医師46名）																																				
業 務 量	【H25年度決算】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>H25年度決算</th><th>対前年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延入院患者</td><td>118,535人</td><td>△9,598人</td></tr> <tr> <td>1日当</td><td>324人</td><td>△27人</td></tr> <tr> <td>病床利用率</td><td>81.2%</td><td>△6.6%</td></tr> <tr> <td>延外来患者</td><td>156,080人</td><td>△6,166人</td></tr> <tr> <td>1日当</td><td>639人</td><td>△23人</td></tr> </tbody> </table>	区 分	H25年度決算	対前年度	延入院患者	118,535人	△9,598人	1日当	324人	△27人	病床利用率	81.2%	△6.6%	延外来患者	156,080人	△6,166人	1日当	639人	△23人	【H25年度決算】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>H25年度決算</th><th>対前年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延入院患者</td><td>47,590人</td><td>△4,330人</td></tr> <tr> <td>1日当</td><td>130人</td><td>△12人</td></tr> <tr> <td>病床利用率</td><td>67.6%</td><td>△6.1%</td></tr> <tr> <td>延外来患者</td><td>121,676人</td><td>△3,107人</td></tr> <tr> <td>1日当</td><td>498人</td><td>△11人</td></tr> </tbody> </table>	区 分	H25年度決算	対前年度	延入院患者	47,590人	△4,330人	1日当	130人	△12人	病床利用率	67.6%	△6.1%	延外来患者	121,676人	△3,107人	1日当	498人	△11人
区 分	H25年度決算	対前年度																																				
延入院患者	118,535人	△9,598人																																				
1日当	324人	△27人																																				
病床利用率	81.2%	△6.6%																																				
延外来患者	156,080人	△6,166人																																				
1日当	639人	△23人																																				
区 分	H25年度決算	対前年度																																				
延入院患者	47,590人	△4,330人																																				
1日当	130人	△12人																																				
病床利用率	67.6%	△6.1%																																				
延外来患者	121,676人	△3,107人																																				
1日当	498人	△11人																																				
収支状況	【H25年度決算】 収 益 10,429百万円 費 用 9,899百万円 当期純損益 530百万円	【H25年度決算】 収 益 4,619百万円 費 用 5,105百万円 当期純損益 △486百万円																																				
病院の特色	・総合的な診療機能を有し、3次救急、周産期、がん診療、腎移植等の高度先進医療を行うとともに、地域医療機関を支援する中核病院 <センター等> ・腎疾患総合医療センター ・内視鏡センター ・糖尿病センター ・化学療法センター ・消化器病センター ・四肢外傷センター ・周産期救急医療センター ・術前センター <機関指定等> ・救命救急センター ・周産期母子医療センター ・地域医療支援病院 ・災害拠点病院 ・救急告示病院 ・厚生労働省指定基幹型臨床研修病院 ・兵庫県指定がん診療連携拠点病院	・1次・2次救急やがん診療、広域的呼吸器感染症への対応を行う地域医療を実施 <センター等> ・内視鏡センター ・糖尿病センター ・消化器センター ・呼吸器センター ・疼痛緩和センター ・リハビリテーションセンター ・健康管理センター ・臨床検査科、臨床病理科 <機関指定等> ・救急告示病院 ・厚生労働省指定基幹型臨床研修病院 ・兵庫県指定がん診療連携拠点病院																																				

※ 下線は、一方の病院にしかない診療機能、特色を示す。

※ 数値データは、小数点以下を切り捨て。